

月日会々報

発行所
都立田園調布高等学校
同窓会 月日会
都立田園調布南27-1
電話 (3759) 4344
発行人 田中 祥巳
編集責任者 池田 祥巳

名譽会長 則家 入正男氏
会計監査 八木 大蔵 正人氏
昨年五月十五日の役員選挙におきまして賛成多数で承認されましたので、ご報告致します。
選挙結果は七九票内賛成は六二票、保留票は入正男氏十六票、大蔵氏十票でした。
尚、会則により、田中博隆会長（六期）の滞任（二十五期）は留任の予定です。

月日会新名簿発行
昨秋一九九六年版が発刊されました。想像以上に苦勞した作業でしたが、この冊から少しでも月日会の輪が広がっていくことを願っています。
限定販売でしたが、少し残部があります。先着順に五十部（四百五十円）販売します。
協賛金、広告に協力いただいた多数の会員の方々に厚くお礼申し上げます。

一九九九年 母校五十周年 二〇〇二年 月日会五十周年

二〇〇〇年を境に母校での大事業が展開されることになりました。母校創立五十周年記念事業に月日会として、ご協力致したいと思っております。その際は会員の皆様より多くご支援下さい。

五十周年記念総会を開催致します。この記念すべき総会もあと五年です。ご協力をお願いします。

事業計画を立て、協賛金等会費の確保をお願いいたします。そのために、一期、二期までのすべての期生による準備委員会の組織づくりを来期より少しずつ着手してゆきたいと幹事会では検討を始めています。

新名簿も発刊されましたが、更に五十期生を入れた名簿作成にも今から取り組んでいます。そして何より、年費費のご理解とご協力をお願い致します。



平成八年度都立田園調布高等学校月日会臨時執事上総会に於て、名譽会長を拝命した第一期卒業生の家入正男であります。

素晴らしい伝統と校風 教育理念を先取り

学校長 吉田 秀男

月日会の皆様には日頃から本校教育活動にご支援をいただき、ありがとうございます。また、私の中学校の先輩でもある、会長の田中博隆氏は財団法人田園調布理事長としてもよくお会いし、何かとお世話になつております。重ねて御礼申し上げます。

私は五反田で成長に会い、池上線の長原にある函科院の叔父の家に通塾し、大田区立赤松小学校に入学しました。二年生から五年生まで一時品川に移り、その後、高校卒業一年後までの約八年間を再び大田区霞谷町（池上線の石川台）で過ごしました。

当時本校の周辺は自然に恵まれ、田や畑や林が沢山ありました。私はそのなかで多摩川台公園（亀甲山）など飛び回り、雑草を主に昆虫採集に明け暮れ、夏は「子橋」や「九子橋」の多摩川での水泳、大森海岸では潮干狩り、洗足池ではボート遊び、池上本門寺のお盆式や多摩川の花火見物など、本校周辺で楽しい日々を過ごしました。

四つ目、本校の施設整備は大変素晴らしいという事です。駅から坂を上り、仰き見る校舎の外観、正門を入った時の印象など、この地に相応しく、堂々とした校舎内の造りは綺麗で落ち着いた良い雰囲気が見られます。パソコン教室、しじ教

室、視聴覚教室、各教科の実験実習室、柔剣道場、テニスコートや多摩川河川敷グラウンドなどとともに、来年一月末完成予定の新体育館は、地下室のある重層構造の贅沢な設備をもち、これが加われば本校にとって一層施設整備は充実します。

ところで、今日の高校教育は生徒のいじめ、自殺、不登校、中途退学、薬物乱用等非行や犯罪などの問題がみられ、その対策に向けて教育改革が迫られています。量から質へ、画一から個性重視、即ち生徒一人一人の能力、適性に合った教育へ、知識偏重から生徒自らが主体的に考え行動できるための教育への転換など、中教審、教課審等各種の審中が指摘され、国や都でも重点施策として進んでいます。

しかし本校ではこの教育理念を先取りし、誠実、敬愛、自主をモットーに、生徒の個性を尊重し、自由で明るく楽しい校風、伝統・文化を築いてきました。



私が都立西高校から本校に着任して早くも二年が過ぎようとしています。着任当時を振り返り、多くの印象や感激が思い出されます。その一つ、私のかつての「ふるさと」に帰って来たと言う懐かしさです。

二つ目、本校の伝統や校風が大変素晴らしいという事です。よき生徒達とよき先生方の姿に感動しています。学校は何

といつても教育活動の中身が重要だと思えます。田園調布は明るく爽やかな校風のびとびととした大らかさをもつて充実した田園調布生活を送っています。多分、同窓生の皆様の間も同じだったと想像しています。

三つ目、本校は自然環境や学習環境に大変恵まれている事です。交通の便、緑豊かで静かな住宅地、眼下に多摩川、仰けば雲峰富士の見える高台、小・中学校や図書館に隣接した文教地区、本校の名称にもなっている「田園調布」の一角にあることなど。

二年後の平成十一年には本校創立五十周年を迎えます。今後月日会の皆様の一層のご理解とご支援が不可欠です。母校の発展のため、よろしくお願ひ申し上げます。

最後にになりましたが、月日会の益々の発展と、田中会長さんをはじめ、同窓生の皆様のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

我々月日会も、田中会長以下若い幹事の諸君が己を犠牲にしてまでも、月日会の発展、繁栄の為日夜努力されている事は誠に感謝の念に耐えません。田園調布卒業生の中に、何人か母校で先生をしておられるとか、この先生方を媒体として学校側、そしてPTAとのコミュニケーションを密にして、田園調布高校そして月日会の更なる発展を祈念するものであります。

月日会の更なる発展を

月日会名譽会長（二期生） 家入正男

世の中、飯塚都立大田高校として名声をあげた我母校田園調布高校も、早くも創立半世紀近くになります。創立当時の大森第五小学校に於ける飯塚校長、第五小学校校長第一中学校、そして大田高校との三編交替の授業でした。運動場の先が平和高の海で放課後は、ボートを漕いで、島を一周することが出来、速くには海苔のしががある風景を思い出します。

三年生の時に沼津に移転、木造二階建のモダンな校舎にて勉強出来ること、とても嬉しくなりました。そのため、本校は他校に比較して課題は大変少なく、大変感があります。本校の特色ある教育として、国際理解教育の推進としての留学生受入れ、人権尊重教育と心身障害児理解教育の推進として大田ろう学校、矢口養護学校と交流を深め、生涯学習も視野に入れた基礎学力向上と在り方生き方教育の推進、地域に愛され期待される学校経営を目指した施設解放、公開講座、一部学校行事等の公開、学校説明会など行ってきました。

私達一期生は早くも退職も過ぎ、また現役で頑張っている者、孫に聞かれ素晴らしい第二の人生を謳歌している者等、多士済々であります。パブルの崩壊によるところの我が国の現況は、戦後の混乱期とは別に騒然としており、国内政治を始め、解決すべき問題は山積しております。

私達の世代の者は勿論の事、私達の後を継ぐ若者が手に汗し、新しい平和な日本、豊かな中にも緊張感のある日本を再現していかなければならないと思っております。

我々月日会も、田中会長以下若い幹事の諸君が己を犠牲にしてまでも、月日会の発展、繁栄の為日夜努力されている事は誠に感謝の念に耐えません。田園調布卒業生の中に、何人か母校で先生をしておられるとか、この先生方を媒体として学校側、そしてPTAとのコミュニケーションを密にして、田園調布高校そして月日会の更なる発展を祈念するものであります。

多摩



昔さんは「大田ろう学校」をご存知ですか。また田園調布高校の協力校であることをご存知の方は、どのくらいいらっしゃるでしょうか。私は在学中、吹奏楽部の活動でろう学校の校歌を演奏することがありましたが、ろう学校の生徒と直接交流を持つ機会はありませんでした。

ろう学校とは、耳が聴こえない又は聴こえにくい人のための学校であり、大田ろう学校は田園調布五丁目にある。十五、二十歳の若者が通っている学校です。大田ろう学校では、手話講習会も行なっており、一般の希望者が参加しております。実際に参加した人達の多くは、障害を持つ方々の苦勞や考え方が少しでも理解出来、障害者への意識が変わったと言っています。

参加者の中には、中高年の方が多く見られます。しかし何が合った時には、若い人の力が重要です。昔さんも一度、手話講習会やボランティア活動などを通じて、障害者の方と交流を持つてみてはいかがですか。

（四十四期生 野村 文子）

新会費

四十五期生

二百三十七名

月日会は延一万二千六百五十七名となりました。連絡可能会員は、約九千三百七十二名です。



都立高校の行方

(二十六期生) 川上賢一郎

春から夏にかけて、都立高校の現場ではある緊張感が流れていた。自分の学校が存続するかどうかがという危機感である。このおこりは、昨年暮れに東京都教育委員会が出した「都立高校白書」というパンフレットで、そこには一三年後には都立高校が四十校余ると書かれている。しかし、これは一学級の人数を四千人で計算した場合の話である。欧米では、一学級の人数は二十〜三十人が普通だ。一学級を三十人として計算すると、

十三年後には四十校余るところが、一校足らないらしい。一学級の人数を少なくすれば、行き届いた教育がしやすくなるのは誰の目にも明らかだが、ここには財政的な問題が大きく絡んでいるらしい。四十八学級を三十六人学級(それでもまだ十分だが)にする、単純計算で人件費が一割多く

が明かされ、全日調高校十七校、定時制高校十五校が対象となった。そして、長期的には、十年間で全日調高校を約四十校減らし、ニュータイプの高校を十校程度新設するというところらしい。これは、都民にとつては大ニュースだと思おうが、余り大きくは取り上げられていないようだ。次の、あるいはその次の三年計画で、

我が母校が指名されないという保障はない。一個性化特色化をうたった、ニュータイプの高校(「普通の高校生が普通」に学ぶ、普通の高校)が進級にキチンとあると

いうのがとても大切なことで、それを準備するのが教育行政の大きな役目だと思ふ。田高はそういう意味でもとても重要な学校で、このままの「田高」で、ずっと残っていくことを強く望みたい。

田園調布高の日々と今

旧教職員 山崎 栄美子 (旧姓塚本)

私にとり、二十五年前から三十才までの青春後期が田調の日々でした。大学で書道を専攻していたので、田調の国語教師としては力不足で、日々悪戦苦闘した記憶があります。生徒さんが一時間に吸収する内容が多いので、授業準備に自分身よく勉強しました。私の話す内容も、全員がさちさちとノートにまとめて

いきました。テストの時、私が読んだ内容まで修正して書いてあったりして、テスト前後は胃が痛くなる程緊張しました。また正式に就職したのも初めてだったので、毎日の通勤生活に慣れるのにも一苦労でした。それでも、同僚の藤倉先生を中心とした結果、暖かいご指導、生徒さんとの話し合い、「ぼろにあだ」での演劇、山中寮でのキャンプ、フットボール、合唱等、田調の自

由や明るさを誇耀していません。「アンアン」にカッコいい学校を紹介されたのもこの頃でした。次第に慣れて、楽しくなつた田調生活を突然終わりました。普通教員を控えている新設校があったのです。渡りに舟とばかりに、居まで移して、西多摩の地、羽村高に転勤しました。書道に関してはよかったです。教育の背景が全く違っていました。生徒が学校に來ない、授業が成立しない、毎日事件が起こる、遅くまでの職員会議、あき時間の見廻り、退学者の純情等体力勝負の日々となりました。彼らにとつて学校や勉強は苦痛であり、バイトやバイク、車に情熱をそそいでいました。そんな彼らに授業で勝負を挑むのも、進ったやりのあることでした。十五才から十八



才の青春の感受性はナイーブで同じですから。今、様々な理由で退職し四年目です。任んでいる人と区画整理反対運動をしています。土地の無償提供、曳家、清算金としての事業費負担、環境破壊等の理由です。卒業生の皆さんの中で、土地関係の弁護士の方、都市計画関係の方、マスコミの方、区画整備を体験された方、ご連絡下さい。どうぞ、力を貸して下さい。

財団法人田園調布バックネット新設

多摩川河川敷グラウンドに野球用バックネットを新設しました。

財団の主な活動として、グラウンド整備の他、事業として、一般開放の日、祝祭日行っています。利用希望者は母校事務局、白田理事におねわ下さい。母校教育活動の支援の他、地域社会への奉仕活動にも目をむけてゆくように理事会では審議しています。

校章から筒まで

幹事長 林 和紀 (三十三期生)

九六年度の月日会活動報告を通して一年間の同窓会活動を紹介いたします。

四月は母校は「百四十名の四十八期生を迎えました。生徒全員には月日会より贈呈された新しい校章が光っています。この贈呈活動は九十五年度の幹事会にて提案、可決されたもので九十六年より採用されました。この時期には月日会の年間計画が計画されます。以降、定期的に幹事会を開催し、名簿、会報、総会の各小委員会の進捗を確認します。

次の田高行事といえはばろにあ祭(文化祭)です。月日会では毎年小会議室をお借りして名簿、会報、その他の資料の展示を行い、同時に同窓生の休日の場として開放しております。またPTA主催のバザーへの協賛も十年余りになりました。このバザーへの協賛を継続したところ必ず返ってくださる委員の

方がいちいちやりに感謝の限りでございます。収金金の一部は大田ろう学校へ寄付されます。文化祭への参加後のメイン活動となるのは、会報の編集、発行です。今年度は遅くなり申し訳ありませんが、会報のテーマ決定から原稿依頼、校正等々すべて幹事会が行っています。

この編集作業実施期間中に母校の卒業式を迎えます。月日会では卒業式の列席及び、卒業証書入れ用箱の寄附を行います。大多数の卒業生はこの時に同窓会や同窓生という言葉の響きを身近に感じ、「月日会」の名称も覚えると思います。

実は入学したときの校章から月日会とのつながりと学生生活が始まり、卒業証書用箱で学生生活に切りオドが打たれます。しかし月日会とは一生会員として会報、名簿、同窓会総会を通して絆を深めて行きます。一そう

あることを願っています。話が多少それましたが以上が月日会幹事会活動の一年です。一、月日会設立五十周年記念総会への企画運営

二、月日会ホームページの開設

三、母校創立五十周年行事への参加

が主となってきます。

特に一の月日会設立五十周年記念総会は今までにない盛会となる様会長を筆頭に幹事会々努力致します。また一部の会員の方々にも協力を要請いたしますのでよろしくお願致します。

二のホームページ開設に関しては会報の様な一方通行の広報活動から双方の広報活動を進めることとして提案しています。今年度中に予備調査を行います。予算成立後に活動を開始し、来年度中の開設を目指しております。

その他皆様からの提案などをお待ちしております。送付先は月日会事務局まで

〒145 大田区田園調布郵便局 145 田園調布高等学校月日会まで 秘書第27号

平成8年度 会計報告

収入		支出	
前年度繰越金	2,971,357	幹事会費	111,200
卒業生入会金	1,260,000	通信事務費	14,729
銀行利息等	2,085	会報発行費	1,435,514
年会費	1,600,000	名簿編集費	13,699
名簿売上	15,500	総会準備費	0
寄付	283,930	ばらにもち寄附費	7,740
		卒業生名品代	68,959
		新入生記念品	76,500
		田園調布寄付	50,000
		備品費	0
		支出合計	1,778,341
		次年度繰越金	4,354,531
合計	6,132,872	合計	6,132,872

平成9年度 予算案

収入		支出	
前年度繰越金	4,354,531	幹事会費	350,000
卒業生入会金	1,185,000	通信事務費	100,000
銀行利息等	3,000	会報発行費	1,600,000
年会費	1,200,000	名簿編集費	200,000
名簿売上	50,000	総会準備費	100,000
寄付	150,000	ばらにもち寄附費	50,000
		卒業生名品代	60,000
		新入生記念品	80,000
		田園調布寄付	50,000
		備品費	100,000
		予備金	100,000
		支出合計	2,790,000
		次年度繰越金	4,152,531
合計	6,942,531	合計	6,942,531

会計報告

平成八年度分の月日会収支は表記の通り決算致しましたのでご報告申し上げます。

会計監査

平成八年の度会計報告について適法かつ妥当であることを認めます。あらためて次回総会で報告いたしますが、先に会報でお知らせしておきます。

会計監査 大蔵 正人(八期) 原 雅裕(二十九期)

進路状況

1997年春の卒業生の4年制大学進学先

〔 〕は公募推薦 () は指定推薦で内数 割合は2部

東京農工	11(1)	専修	1(0)	日本	1(0)	早稲田	1
埼玉	11(1)	大正	1	日本体育	2	神奈川	8(2)
都留文科	1	大東文化	1	法政	3(2)	関東学院	5
下関市立	1	中央	2(1)	武蔵	3(2)	相模女子	1
青山	1(0)	帝京	1(1)	武蔵工業	2(1)	東洋英和	2(0)
亜細亜	1	東海	1(1)	武蔵野女子	1	横浜商科	1
桜美林	1	東京経済	1(1)	明治	1	神田外語	1
慶應義塾	1	東京電機	1	明治学院	3	千葉工業	1
駒沢	3	東京薬科	1(1)	明星	2	千葉商科	2
成蹊	2	東京理科	1	立教	2(2)	東京情報	1
成城	2(0)	東洋	3(1)	鶴見	1	帝京科学	1

最近5年間の合格者の多い4年制大学

(総入を含む延べ人数、2部を除く)

97年春(45期)	96年春(44期)	95年春(43期)	94年春(42期)	93年春(41期)					
神奈川	18	日本	17	日本	15	関東学院	18	日本	18
駒沢	16	帝京	12	専修	14	神奈川	13	神奈川	15
関東学院	15	東洋	11	神奈川	14	大東文化	10	帝京	13
日本	14	駒沢	8	帝京	13	東海	10	関東学院	13
専修	12	神奈川	8	東海	12	武蔵工業	9	大東文化	11
明治学院	11	東京農業	8	駒沢	11	立正	9	専修	9
東海	11	立正	8	東洋	11	日本	9	法政	9
千葉商科	9	東海	7	立正	8	帝京	8	明治学院	8
法政	8	専修	6	関東学院	8	明星	8	駒沢	7
明治	8	国学院	6	亜細亜	6	国士館	7	中央	7
明星	8	関東学院	6	明治学院	6	法政	6	明治	7
東洋	8	千葉商科	6	中央学院	6	青山	6		
合計	270	合計	261	合計	288	合計	266	合計	308

注：都立高校の定員減にともない、この間に卒業生数が減っています。

右より、
西野大田区長、吉田校長
P.T.A佐藤会長、昆副会長
田中月日会々長



今年四月に、神津高校から転任してまいりました。よろしくお願ひ致します。月日会の田中会長様には、四月以来何度かお会いし、お話しを伺っております。忙しいお仕事の合間をぬって度々田高に足を運んで下さいます。母校への熱い思いを語られる田中様は、若々しくエネルギッシュに語りあふれておられます。同もなぐ五十周年を迎えられる月日会の姿をそのまま映し出されている様に思っています。

田高生達も毎日、若々しく生き生きと授業に、部活動にと打ち込んでおります。九月二十日、二十一日に行われました今年のはらにあ祭は、天候にも恵



教師 井田良克

「ちよい匠が、ちよい匠」の手伝い

「MISSION POSSIBLE」限りなく現実に近い夢を求めて今年のはらにあ祭のテーマです。私なりに言い換えますと、「ちよい匠が、ちよい匠」となります。普通より少し圧力を高く、「一、一気」にやらせたら、ご飯が極めておいしく炊けたという炊飯器メーカーのCMのイメージです。今より少し無理をする事が成長のバネになるのではないのでしょうか。

田高生の「ちよい匠が、ちよい匠」を敵ながらお手伝いしていきつらしております。よろしくお願い致します。

新体育館建設中

新体育館は来年一月に完成の予定です。スポーツや文化的行事活動の充実を図るとともに災害時における備蓄倉庫の機能も備え、多目的ホールとしての活用も期待されています。



校舎と建設中の体育館



今春四十八期生入籍

入学式は体育館建設中のため、渋谷の東京児童会館ホールで挙行された。新入生は、二百四十八人です。



新体育館完成図

多岐多岐バザー

今年もP.T.A主催のふれあいバザーに沢山の御品と奉仕活動がありました。P.T.A実行委員長の湯田貴由美さんは、月日会々員二十期生でした。保護者の方々にも月日会々員も結構多くなりました。

月日会々員の御品をお預り致します。いつも事務局へ送って下さい。ご着払い可。

今年の売上金は三十四万二千三百円でした。

売上金の一部は大田区の福祉部と大田ろう学校手話講習会へ寄付させて頂いております。

◆教職員異動◆

退職者 異動先	教科目
濱道 彰広	教頭
藤本博美	教育
菊池尚人	国語
水崎隆夫	国語
枝 廣博	社会
高井八代	英語
山田悦子	事務
小川清孝	事務
小越孝之	事務
村上正直	事務
竹内洋子	講師

転入者 前任所属 教科目

井田良克	神津高	教頭
藤崎昭示	店屋高	国語
新田朝太郎	足立高	社会
大木八登	小山台高	養護
高池 渉	小山台高	事務主任
梅田貴弘	大崎高	事務主任
平木理子	新大崎	事務主任
植松義弘	油上二小	養護主任
杉江一内	新規	講師家庭

都立高に勤務している方々へ連絡を!!

昨年、二十九期の森先生(田高勤務)が、会報で「田高出身で都立高に勤務している方々で一度集まりませんか」と呼びかけたところ、何名かの方から反響がありました。

もう少し情報を集めたいと考えておりますので、今都立高にいらっしゃる方、現在高、連絡先をお知らせ下さい。また、「〇〇高校の△△は、田高出身だ」という情報も、お願ひいたします。

都立志村高校 数学科 川上 龍
〒145 大田区北千代三二一四一
テロム建設館内
月日会事務局 行
会長 田中 博隆



ほろにあ祭展示参加10/20日 月日会会報1号~17号

お便りから

十一月十二日、田高へ敬愛がてら行って見ました。カナタに永住していることもあり、なかなか田高を見に行けるチャンスがなかったのですが、今日行ってみて外観から何から何まで、すっかり変わってしまっていたのでおどろきました。でも田高が発展している様子を見てうれしく思いました。

(十七期生 武田 久忍)

■アラスバンド部の仲良しグループ六人で今年は一泊旅行しました。

皆様からのご連絡を

お待ちしております。

パパーの御前、近況報告、幹事会への参加、たずね人、同窓会活動の提案、会報への投稿等々。

〒145 大田区北千代三二一四一
テロム建設館内
月日会事務局 行
会長 田中 博隆

十八号日の会報は、例年に違わぬ、年押し詰りの発行となりました。

今回、会報の編集役を承りましたが、実際には、割付のト書きを書いただけで、後は田中会長、鈴木副会長、川上副会長、林幹事長の助けで、編集発行に至ることができました。

田中会長には、いつも会務報告などの記事です。今回も、自由題でお願いしました。

加えて、原稿を書いて下さった、現・田教職員の皆様、会員の皆様にも感謝申し上げます。

来年度はほろにあ祭の前に発行すべく、努力します。

さつそく、今からでも草案を練ることにします。

(三十八期生 熊谷 和巳)

編集後記

(十七期生 中林 陽子)

吉祥寺に借りて早やっけ月、ここはとて面白いところで生活をエンジョイしています。原伏先生がおじいちゃんになったと知ってショックです。

(三十四期生 田村久美子)

